

現代日本学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
現代日本学学芸分析特論Ⅰ	近現代皇室の表象	2	茂木 謙之介	1学期	火	2	
現代日本学学芸分析特論Ⅰ	文芸社会史入門	2	高橋 章則	1学期	水	2	
現代日本学学芸分析特論Ⅱ	戦後日本マンガの学術的研究	2	高橋 明彦	集中(2学期)			
現代日本学歴史分析特論Ⅰ	日本史文献購読・英訳	2	クレイグ クリストファー	1学期	火	3	
現代日本学社会分析特論Ⅰ	現代日本における家族と人口	2	田中 重人	2学期	木	2	比較現代日本論特論Ⅰ
現代日本学日本哲学特論Ⅰ	インターカルチャー的視点に基づいた日本哲学概観	2	エンリコ フォンガロ	2学期	木	5	
現代日本学研究特論Ⅰ	文芸社会史研究	2	高橋 章則	2学期	水	2	
現代日本学総合演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリストファー、茂木 謙之介	1学期	水	3	
現代日本学総合演習Ⅱ	現代日本学研究の実践	2	高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリストファー、茂木 謙之介	2学期	水	3	
現代日本学学芸分析研究演習Ⅰ	文芸社会史研究の実践	2	高橋 章則	1学期	月	2	
現代日本学歴史分析研究演習Ⅰ	戦前日本の歴史	2	クレイグ クリストファー	2学期	火	3	
現代日本学社会分析研究演習Ⅰ	現代日本における社会問題の分析	2	田中 重人	1学期	木	2	比較現代日本論研究演習Ⅰ

科目名：現代日本学学芸分析特論 I / Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介（准教授）

講義コード：LM12201， 科目ナンバリング：LJS-OHS601J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近現代皇室の表象

2. Course Title (授業題目)：

Study on representation of Japanese Royal family

3. 授業の目的と概要：

本講義では、近現代皇室の表象の検討を通して日本学研究の可能性を考える。具体的には令和改元前後の天皇と皇室をめぐる様々なイメージを検討し、それらが現代日本社会においていかに位置づけられるのかを考察する。参加者には積極的なアウトプットを求める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course offers an opportunity to think about possibility of Japanese Studies, from analyze of representation of Modern Japanese royal family. In particular, this course focus on images of the Emperor and royal family before and after the "Reiwa" reform and think about the meaning of those images in modern Japanese society. This course calls for audiences active participation.

5. 学習の到達目標：

近現代の皇室表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students better understand diversity in Japanese Studies while learning about the representation of modern Japanese royals,

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イン트로ダクション

第2回 天皇制と表象

第3回 天皇・皇室表象の“限界”

第4回 「ビデオメッセージ」の政治学

第5回 改元と政治

第6回 改元と SNS

第7回 アイドル文化と天皇①

第8回 アイドル文化と天皇②

第9回 ポップカルチャーと天皇①

第10回 ポップカルチャーと天皇②

第11回 「天皇映画」としての『シン・ゴジラ』

第12回 天皇とオカルト的想像力①

第13回 天皇とオカルト的想像力②

第14回 小笠原諸島という“現場”

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅰ／ Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM13201， 科目ナンバリング：LJS-OHS601J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

文芸社会史入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the History of Society and the Arts

3. 授業の目的と概要：

「書物の社会史」に関する基礎文献を取り上げ、文芸社会史研究の基盤を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will take up the fundamental texts related to the humanities, cultural history, historical studies, and social history and will investigate the fundamentals of Japanese Studies

5. 学習の到達目標：

「書物の社会史」に関する基礎文献を取り上げ、文芸社会史研究の基盤を考察する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will gain an understanding of the significance of research in the history of society and the arts as a method for the study of Japanese culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：はじめに—日本学の課題を考える—

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第3回：人文科学の課題

第4回：文化史学の課題

第5回：歴史学の中の文化史学

第6回：「書物の秩序」

第7回：「読書の社会史」

第8回：文献学と文芸社会史

第9回：文芸社会史の研究①

第10回：文芸社会史の研究②

第11回：文芸社会史の研究③

第12回：日本学の課題と文芸社会史①

第13回：日本学の課題と文芸社会史②

第14回：日本学の可能性

第15回：まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

学期末のレポート [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。

R・シャルチェ『読書の秩序』(文化科学高等研究院出版局)・その他、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

「書物の社会史」に関する基礎文献の把握に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅱ／ Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中（2学期）、単位数：2

担当教員：未定（非常勤講師）

講義コード：LM98801、科目ナンバリング：LJS-OHS602J、使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

戦後日本マンガの学術的研究

2. Course Title (授業題目)：

Academic Research in Postwar Japanese Manga

3. 授業の目的と概要：

戦後日本のマンガを学術的に研究すべく、マンガ独自の表現方法に即して作品を論究する方法（マンガ表現論）、および文献学を基礎として作家・作品を総合的に論究する方法（文献学的アプローチ）を学びます。加えて、代表的なマンガ作品の分析を通じて、現代日本のサブカル的思潮の一端にも触れます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Postwar Japanese manga is deserving of academic study, and students will learn methods of thoroughly studying works based on the particular expressive styles of manga (theories of manga expression) and methods of comprehensively studying authors and their works based on literary theory (philological approach). In addition, by analyzing recent works of manga, we will also touch upon one aspect of contemporary Japanese subcultures.

5. 学習の到達目標：

戦後日本のマンガに対する思潮の理解、および学術的研究方法の習得

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Thought and methods for the study of postwar Japanese manga

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：マンガ表現論・総論／マンガ描線の記号性と力動性

第2回：同／コマ割りの継起性

第3回：同／コマ割りの並存性

第4回：マンガ表現論・各論／視線誘導論

第5回：同／キャラクター論

第6回：文献学的アプローチ／文献学の構造と方法（基礎研究）

第7回：同／マンガをメディア史的に概観する（歴史的展開研究）

第8回：サブカル的思潮／こどもは成長するースポ根と『釣りキチ三平』、正義と『デスノート』、労働と『ヒミズ』

第9回：同／少女は変容するーお母さま・恋愛・美少年、『洗礼』『11人いる！』

第10回：同／青年は挫折するー友情・努力・勝利から嫉妬・才能・挫折へ、『ピンポン』

第11回：同／世界は滅亡する①『来るべき世界』『赤いトナカイ』

第12回：同／世界は滅亡する②『漂流教室』『風の谷のナウシカ』『14歳』

第13回：同／セカイは滅亡する『わたしは真悟』『最終兵器彼女』

第14回：同／革命は失敗する①『悪魔くん（貸本版）』

第15回：同／革命は失敗する②『忍者武芸帳』『カムイ伝』

定期試験：毎時間ミニレポートを課します（5分程度）。

8. 成績評価方法：

授業内容に関するレポートを課します。理解・達成度を判定して成績を付けます。

9. 教科書および参考書：

テキスト：プリントを配布します（多量に配布するので各自できちんと整理してください）。

参考書・参考資料等：高橋明彦『楳図かずお論』（青弓社・2015年刊）には、マンガ表現論に関する総論が記してあります。

上記授業計画で示したマンガ作品については、古典的名作ですから、事前に読んでおくことを勧めます。その他の参考書・研究書、マンガ作品も、授業の中で紹介します。

10. 授業時間外学習：

戦後日本のマンガに対する思潮に着目する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学歴史分析特論 I / Japanese Studies History Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE (准教授)

講義コード：LM12301， 科目ナンバリング：LJS-OHS603E, J, 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本史文献購読・英訳

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

3. 授業の目的と概要：

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing.

5. 学習の到達目標：

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文献の紹介
2. 文献購読・英訳
3. 文献購読・英訳
4. 文献購読・英訳
5. 文献購読・英訳
6. 文献購読・英訳
7. 文献購読・英訳
8. 文献購読・英訳
9. 文献購読・英訳
10. 文献購読・英訳
11. 文献購読・英訳
12. 文献購読・英訳
13. 文献購読・英訳
14. 文献購読・英訳
15. 文献購読・英訳

8. 成績評価方法：

翻訳・出席 [70%] 提出翻訳 [30%]

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：現代日本学社会分析特論Ⅰ／ Japanese Studies Society (Advanced Lecture) Ⅰ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LM24201， 科目ナンバリング：LJS-OHS604J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：比較現代日本論特論Ⅰ】

1. 授業題目：

現代日本における家族と人口

2. Course Title (授業題目)：

Family and Population in Modern Japan

3. 授業の目的と概要：

特に家族制度と人口現象に注目して、近代以降の日本社会について講義する

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を知る

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

第1回：はじめに：社会分析のための知識と方法

第2回：法と規範

第3回：法的な情報を調べる方法

第4回：現代日本の家族法について受講生からの報告と討論

第5回：現代日本の家族法について補足説明

第6回：人口統計と人口現象

第7回：20世紀日本社会の人口変動

第8回：講義前半の振り返りと進捗確認

第9回：ライフサイクルの変化

第10回：近代化にともなう社会変動

第11回：工業化と都市化

第12回：イエ制度の解体と個人主義化

第13回：日本的経営と福祉国家

第14回：講義後半の振り返りと進捗確認

第15回：講義全体のまとめと講評

8. 成績評価方法：

授業中に課す課題および宿題による

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：

各回の課題に対応する予習・復習と宿題

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学日本哲学特論 I / Japanese Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：FONGARO ENRICO (准教授)

講義コード：LM24501， 科目ナンバリング：LJS-OHS605E， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

インターカルチャー的視点に基づいた日本哲学概観

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Japanese philosophy from an intercultural perspective

3. 授業の目的と概要：

インターカルチャー的視点から日本哲学について、京都学派を中心として概観し、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to deepen the understanding of contemporary Japanese philosophy from an intercultural point of view, focusing on the so called “Kyōto School”.

5. 学習の到達目標：

日本哲学とは何か、またその変遷について京都学派を中心として、重要なキーワードに沿って解説を行なう。それと同時に哲学と翻訳の本質的な結びつきに関して論じる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

What is “Japanese philosophy”? How did it develop? This course aims to try an answer to such problems through the introduction of some fundamental keywords. At the same time, it gives the opportunity to think about the essential link between “philosophy” and “translation”.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：日本哲学とは

第2回：日本哲学における翻訳の問題

第3回：現代日本哲学入門

第4回：日本哲学における「京都学派」

第5回：西田幾多郎の哲学 (1) 純粋経験

第6回：西田幾多郎の哲学 (2) 場所とその論理

第7回：西田幾多郎の哲学 (3) 弁証法的世界

第8回：西田幾多郎の哲学 (4) 西田の美学

第9回：西田幾多郎の哲学 (4) 行為的直観

第10回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (1)

第11回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (2)

第12回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (3)

第13回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (4)

第14回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (5)

第15回：インターカルチャーの立場から見た京都学派の「解体」の可能性について

8. 成績評価方法：

授業態度、発表、討論を総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

課題文献を読み、授業内容をより深く理解すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代日本学研究特論 I / Japanese Studies Research (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM23201， 科目ナンバリング：LJS-OHS606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

文芸社会史研究

2. Course Title (授業題目)：

History of Society and the Arts

3. 授業の目的と概要：

人文科学・文化史学・歴史学・社会史に関する基礎文献を取り上げ、日本学の基盤を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students will take up the fundamental texts related to the humanities, cultural history, historical studies, and social history and will investigate the fundamentals of Japanese Studies.

5. 学習の到達目標：

日本文化研究の方法としての文芸社会史研究の意義を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will gain an understanding of the significance of research in the history of society and the arts as a method for the study of Japanese culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第 1 回：はじめにー日本学とは何かー

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第 3 回：人文科学の特色①

第 4 回：人文科学の特色②

第 5 回：文化史学とは①

第 6 回：文化史学とは②

第 7 回：歴史学再考①

第 8 回：歴史学思考②

第 9 回：社会史とは①

第 10 回：社会史とは②

第 11 回：文芸社会史とは

第 12 回：文芸社会史の研究手法

第 13 回：文芸社会史と個人史

第 14 回：文芸社会史と地域史

第 15 回：まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

学期末のレポート [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。

授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

人文科学・文化史学・歴史学・社会史に関する基礎文献に触れる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学総合演習 I / Japanese Studies (Comprehensive Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則・田中 重人・CRAIG CHRISTOPHE・茂木 謙之介 ()

講義コード：LM13301， 科目ナンバリング：LJS-OHS607J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

現代日本学の実践

2. Course Title (授業題目)：

Innovative Japanese Studies (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.

5. 学習の到達目標：

日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：はじめにー日本学とは何かー

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

報告に関する知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学総合演習Ⅱ／ Japanese Studies (Comprehensive Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則・田中 重人・CRAIG CHRISTOPHE・茂木 謙之介（）

講義コード：LM23301， 科目ナンバリング：LJS-OHS608J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

現代日本学研究の実践

2. Course Title (授業題目)：

Innovative Japanese Studies (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.

5. 学習の到達目標：

日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will learning to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画

第1回：はじめにー日本学とは何かー

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：社担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

報告に関する知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学学芸分析研究演習 I / Japanese Studies Liberal Arts (Research Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM11201， 科目ナンバリング：LJS-OHS609J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

文芸社会史研究の実践

2. Course Title (授業題目)：

History of Society and the Arts (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

文芸（「狂歌」）と用いた社会史研究の方法を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will learn methods for conducting social history research using literary “comic tanka”

5. 学習の到達目標：

日本文化研究の方法としての文芸社会史研究の意義を理解し、研究方法を習熟する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will gain an understanding of the significance of researching the history of society and the arts as a method of studying Japanese culture and will master research methods

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第 1 回：はじめに一文芸社会史とは何かー

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第 3 回：「狂歌」の歴史的な意義

第 4 回：「狂歌」を用いた歴史研究

第 5 回：文芸（「狂歌」）と美術（「浮世絵」）

第 6 回：課題の設定と成果①

第 7 回：課題の設定と成果②

第 8 回：課題の設定と成果③

第 9 回：課題の設定と成果④

第 10 回：課題の設定と成果⑤

第 11 回：課題の設定と成果⑥

第 12 回：課題の設定と成果⑦

第 13 回：課題の設定と成果⑧

第 14 回：課題の指摘と発展的考察①

第 15 回：課題の指摘と発展的考察②

定期試験

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

附属図書館の古典籍を利用し、発表資料を作成する。

授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

附属図書館の古典籍に触れる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代日本学歴史分析研究演習 I / Japanese Studies History (Research Seminar) I

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE (准教授)

講義コード：LM22301， 科目ナンバリング：LJS-OHS610E, J, 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

戦前日本の歴史

2. Course Title (授業題目)：

Prewar Japanese History

3. 授業の目的と概要：

授業は、近代世界史の一環として日本の戦前近代史を学ぶ。対象の時代は 1800 年から第二次世界大戦までで、世界という観点から日本を学ぶことによって、戦前の日本の世界における位置の理解を深めることは目指すところである。

日本史に関する最近の英語で書かれた文献を読み、英語で論文を作成することにより、英語圏のアカデミックな日本史を学ぶだけでなく、英語文作成を学ぶことができる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course covers Japanese history from the early 19th century to the Second World War, with a focus on treating this as one aspect of modern world history, rather than an isolated national history. Students will read widely from recent English-language historical scholarship and develop their skills as historians and writers through in-class discussion and written responses.

5. 学習の到達目標：

戦前日本史に関する歴史学的な問題や主要な文献を意識する。英語での歴史学のあり方を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The primary goal for this class is for students to gain familiarity with the major historical issues connected to prewar Japan and the important works of English-language scholarships on these issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. The Beginning of the Beginning of the End: Japan in 1800
2. The Best of Times, the Worst of Times: Japan 1790-1844
3. Black Ships and Chaos
4. Millenarianism, Modernity, and Malaise: The Meiji Revolution
5. Making Meiji: Establishing the State
6. New Days in Meiji Japan: The Cultural Revolution
7. Treaty Revision and New Encounters with the World
8. New Imperialism: Bestial Inoculation
9. Japan, Incorporated 0.1
10. Democracies and Socialisms: New Engagements with Politics
11. Can't Win for Losing: World War I and International Alienation
12. Erotic, Grotesque, Nonsense: "Taisho Democracy" and the Authoritarian Backlash
13. Twilight Empire: Asian Imperialism Revived
14. All Citizens Are Soldiers: The Wartime Mobilization of Society
15. The Pacific East Asian War and Everything After

8. 成績評価方法：

リアクション・ペーパー[40%]プレゼンテーション[40%]出席・ディスカッション[20%]

9. 教科書および参考書：

各時間に適する適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

2 回資料のリアクション・ペーパーを書く。

Class readings are to be completed before class meetings.

1 reading response is to be submitted during the semester.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

This class is taught in English. All readings are in English and assignments are to be completed in English.

科目名：現代日本学社会分析研究演習 I / Japanese Studies Society (Research Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LM14201， 科目ナンバリング：LJS-OHS611J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：比較現代日本論研究演習 I 】

1. 授業題目：

現代日本における社会問題の分析

2. Course Title (授業題目)：

Research of Social Problems in Modern Japan

3. 授業の目的と概要：

家族制度・人口変動・社会政策を中心として、近代以降の日本における社会問題の変遷を学ぶ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

受講者各自の関心にしたがって文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながら日本近代史に関するレポートを作成する。

第1回：はじめに：この授業での課題設定と調査の方法

第2回：近代日本における家族制度・人口変動・社会政策の概要

第3回：課題設定のための討論

第4回：文献検索とデータベース利用

第5回：近代日本の統計システム

第6回：統計資料の評価と活用

第7回：各自のテーマと先行研究について報告と討論

第8回：近代史研究のための専門用語と理論体系

第9回：アイデアの創出

第10回：アイデアの交換と建設的批判

第11回：途中経過の報告と討論

第12回：プロジェクトとしての近代史研究

第13回：研究の倫理

第14回：発表会

第15回：発表内容についての講評および期末レポート作成に向けての注意事項

8. 成績評価方法：

授業中の課題 (30%)、途中経過等報告と討論での発言 (30%)、期末レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ』(第2版) 慶應義塾大学出版会

10. 授業時間外学習：

授業で指示する課題をこなしながら、各自の関心にしたがって研究プロジェクトを進める

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

